

一般演題P2-2

突発性難聴に対する高気圧酸素治療期間の検討

市川峻介 入船竜史 原 和信

独立行政法人 国立病院機構 呉医療センター ME管理室

【目的】

突発性難聴 (SD) の治療として、ステロイド等の薬物療法に加え、高気圧酸素治療 (HBO) も行われている。しかし、治療効果に対し明らかな有効性は示されておらず、治療期間においても明確な報告はない。今回、当施設での治療を行った患者の平均聴力を基に、HBO の治療期間について後向きに検討する。

【対象】

2010年1月から2012年11月までに薬物療法とHBO (2.0ATA60min) を行い、厚生労働省が定めた聴力回復の判定基準で著明回復以上であった87名 (改善群) と回復以下であった202名 (不変群) を対象とした。

【方法】

- 1) 発症から治療開始までの日数について、 χ^2 検定を使用した残差分析を行い $p < 0.05$ を有意差ありとした。
- 2) 初診時から治療終了まで、1週間 (w) 毎に測定した4分法での平均聴力 [dB] を対応のあるt検定を使用し、 $p < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】

- 1) 発症から治療開始までの日数 (図1)

両群間で「 $\leq 1w$ 」及び「 $2w <$ 」の患者分布に有意な差を認めた ($p < 0.001$)。改善群では、1週間以内に治療開始した患者が60%であったのに対し、不良群では、2週間を越えて治療開始した患者が27%であった。
- 2) 平均聴力の変化
 - 2-1) 改善群 (図2)

初診時から1w後では、 56.6 ± 25.9 vs. 36.2 ± 22.8 [dB] ($p < 0.001$)。1w後から2w後では、 41.0 ± 23.6 vs. 27.2 ± 16.0 [dB] ($p < 0.001$)。2w以降は有意な差を認めなかった。
 - 2-2) 不変群 (図3)

いずれの治療期間においても有意な差を認めなかった。

【考察】

SDに対するHBOの予後に影響を与える因子が、めまいの有無や重症度、発症日数など多因子であると考えられている為、治療効果の評価が一定ではない。今回、発症からの治療開始までの日数について検討した結果、当院でも改善群と不変群で比較するとCochrane Review¹⁾と同様であった。しかし、不変群でも発症から2週間以内に治療を開始した患者も存在しているため更なる検討を行う予定である。

聴力変化を検討した結果、改善群の傾向では治療開始から2週間までは有意に聴力が改善している。これに対して、

不変群では治療期間内で有意差は見られなかった。よって、HBOの治療期間は、2週間を基本とし3週目以降は、患者の状況を見て追加するのが良いのではないかと考えられた。

【結語】

HBOの治療期間は、2週間を基本とするのが良いと考えられた。

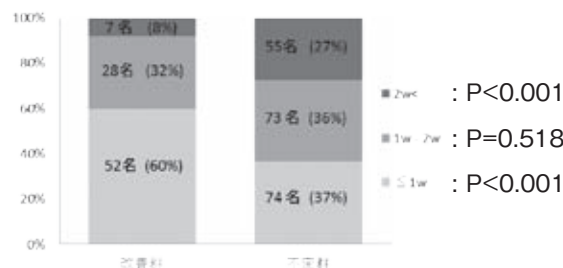


図1 発症から治療開始までの日数

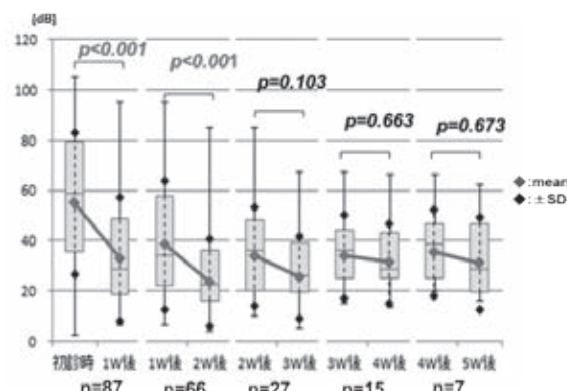


図2 改善群の平均聴力変化

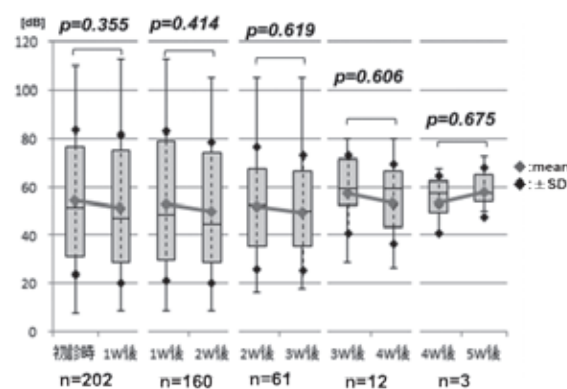


図3 不変群の平均聴力変化

【参考文献】

1) Bennett MH: Hyperbaric oxygen for idiopathic sudden sensorineural hearing loss and tinnitus. The Cochrane Database of Systematic Review 2012; Issue 10